

2. 事業の目的と概要	
(1) 事業概要	<p>島尻消防組合が保有する救急車両、救援・救助用車両及び機材の供与により、事業対象地であるビクトリアス市の救急医療及び緊急輸送の設備増強を支援する。</p> <p>また、島尻消防組合の代表者及び技術職員がビクトリアス市で開催されるワークショップの中で、ビクトリアス市災害対策管理局職員への技術的アドバイス及び応急処置研修を実施し、同市の救急医療体制の強化を目指す。</p>
(2) 事業の必要性（背景）	<p>(ア) 事業実施国における一般的な開発ニーズ</p> <p>島嶼地域からなるフィリピンは、地理的要因から、国土面積の50.3%（国の人口の約81.3%（約76.6百万人））が洪水、台風、地震等による経済的な影響を受けやすく※1、自然災害のリスク世界171ヶ国中で3位にランク付けされている※2。また、国の人口の88.6%（83.5百万人）が死亡リスクに直面している※3と算出されており、44の開発途上国のうち、相対的に人的損失と経済的被害のリスクが最も高い国の一つとされている※4。</p> <p>自然災害では、同時多発的かつ広域的に負傷者が発生することから、災害医療（災害時の急性期・初期医療）や応急処置における、適切な設備の配備や能力の向上を図る必要がある。このことから、災害・救急医療体制の整備が急務とされているが、医療機関の老朽化や設備の未整備が指摘されている。しかし、それ以前に救急搬送の体制が整っておらず、適切な対応が受けられない現状がある※5。</p> <p>※1 及び※4 国土面積の 50.3%（国の人口の約 81.3%（約 76.6 百万人））が洪水、台風、地震等による経済的な影響を受けやすく（出典：Asian Development Bank 2013, The Rise of Natural Disasters in Asia and the Pacific）</p> <p>※2 フィリピンの自然災害リスクは、世界 171 ヶ国中で 3 位とされている。（出典：World risk report 2015, the United Nations University for Environment and Human Security (UNU-EHS) and the Alliance Development Works）</p> <p>※3 88.6%（83.5 百万人）が自然災害による生命を脅かすリスクに直面している（出典：The World Bank Hazard Management Unit 2005, Natural Disaster Hotspots A Global Risk Analysis）</p> <p>※5 救急搬送の体制が整っておらず、適切な対応が受けられない（出典：Philippine Health Sector Review 2011, Transforming the Philippine Health Sector: Challenges and Future Directions）</p> <p>(イ) なぜ申請事業の内容（事業地、事業内容）となったのか</p> <p>対象地の現状と被害発生リスク：フィリピンの西ネグロス州北部沿岸地域に位置するビクトリアス市は、植民地時代の砂糖栽培プランテーションによる単一栽培化によって貧富の格差が進み、人口約9万人のうち全体の約3割を占める貧困層住民は、特に山間地域に集中している。同市においても災害リスクは高く、近時では2018年1月12日の集中豪雨による洪水が発生し、約3,000世帯、約18,000人が被災した※6。同市における第3次救急医療※7が必要な件数は年間約3,670件中、山間地域は年間約20件、そのうち搬送中の死亡は約20件と報告されている※8。</p> <p>取り組みと課題：西ネグロス州では「包括的健康保健プログラム」、ビクトリアス市では独自の施政方針「ASENSO」を掲げ「平和・安全と災害管理」に取り組んでおり、避難訓練や応急処置訓練等も積極的に実施されている。現在、同市では、第3次救急医療を提供できる病院がなく、市が保有する救急車4台※9では、総合病院のあるカディスマで24km、シライまで20km、州都バコロドまで40kmの搬送に限界が生じている。さらに市内から20km離れた山間地域への対応はインフラが未整備の中、市災害対策管理局の一般車両により市内の病院</p>

	<p>に搬送され、処置後に救急車で総合病院までの移送となる。また、自然災害が頻発し、被害も広域であることから、災害時は救急車に複数の負傷者や疾病者が同乗することが多く、特に、農村部である山間地域への出動が行き届いていない現状がある。また、避難勧告の発令後、子供、女性や高齢者の避難が間に合わない、救助用の機材が不足している、災害直後の救援物資の輸送が遅れる等の課題も残されている。</p> <p>※6 SunStar Publishing Inc, 2018, MARCHEL P. ESPINA, Victorias City assessing flood damage, 2018/01/15 http://www.sunstar.com.ph/article/414031/</p> <p>※7 第3次救急医療とは、第2次救急（入院、手術室、ICU等の完備）で対応できない集中治療が必要とされる重篤患者への救急医療で、外来・日帰り手術、透析治療、血液バンク等が完備されている。</p> <p>※8 同市における第3次救急医療が必要な件数は年間約3,670件中、山間地域は年間約20件、そのうち搬送中の死亡は約20件（情報源：ビクトリアス市災害対策管理局へのヒアリング（2018年7月））</p> <p>※9 市が保有する救急車とは別に、バランガイと病院で保有される救急車が3台ある。写真は別紙参照。なお、日本の総務省消防庁の指針では、人口10万人以下の地域は2万人に1台であるが、島尻消防では1.48万人に1台となっている。</p>
	<p>●「持続可能な開発目標(SDGs)」との関連性</p> <p>本事業は、救急車両と救援・救助用の車両及び機材の供与を行う事業であり、災害医療における救急搬送や一次処置体制の強化に貢献するものであり、SDGsの目標13の13.1（すべての国々において、気候関連災害や自然災害に対する強靱性（レジリエンス）及び適応力を強化する）に適合する事業である。</p>
	<p>●外務省の国別開発協力方針との関連性</p> <p>本事業によって、救急車両、救援・救急用車両及び機材が、特に山間地域に配備・優先され貧困層や災害弱者の避難・救援・救助が強化されることから、貧困層の自立支援と生活環境改善に該当する。</p>
	<p>●「TICADVⅥにおける我が国取組」との関連性</p> <p>該当しない</p>
(3) 上位目標	ビクトリアス市における、災害医療及び救援・救助の能力が向上する
(4) プロジェクト目標	ビクトリアス市の救急車両及び救援・救助用機材が補填され、同市災害対策管理局の救急搬送、一次処置能力及び避難・救援・救助体制が改善される
(5) 活動内容	<p>ビクトリアス市の救急医療及び救援・救助体制向上の一助として、同市災害対策管理局への救急車両、救援用車両及び救助用機材（レスキューツール）を供与するとともに、同局の救助・避難・消火チーム及び応急処置担当グループに対し、車両の整備、機材の使用手法、救援・救助及び応急処置等について研修を実施する。</p> <p>活動1. 救急車両、救援・救助用車両及び機材の輸送</p> <p>1-1. 輸出入手続きを行う</p> <p>1-2. 海上輸送業者によってフィリピンに輸送する</p> <p>1-3. ハンドルの切り替え等の整備を行う</p> <p>1-4. スービック港からビクトリアス市まで輸送する</p> <p>活動2. 島尻消防組合の職員による技術移転研修の実施</p> <p>2-1. 南城市市長による表敬訪問及び贈与式を開催する （式典には、一般市民も参加することからイロンゴ語⇔日本語の通訳を行う）</p>

	<p>2-2. 組合職員による車両・機材の維持管理・使用法・救助・応急処置に関する研修（講義・実演）を行う</p>
	<p>裨益人口 直接裨益人口：ビクトリアス市災害対策管理局職員、60人 ビクトリアス市山間地域の人口約27,000人 間接裨益人口：ビクトリアス市の人口、87,933人、26 バランガイ※ ※ Census of Population (2015). "Region VI (Western Visayas)". バランガイとは、フィリピンの都市と町を構成する最小の地方自治単位であり、村、地区または区を表す独自のフィリピン語</p>
<p>(6) 期待される成果と成果を測る指標</p>	<p>本事業では、島尻消防組合より、救急車、緊急支援用車両及び救助用機材が供与され、さらに、<u>技術移転研修が行われることで同局職員の能力の向上</u>、車両や機材の<u>管理・整備とともに救急搬送や救助・救援現場での活躍</u>が見込まれている。特に本事業によって、<u>山間地域に対する救急車の配備が強化されることから、<u>貧困地域</u>における緊急搬送及び避難・救助・救援体制が改善される。</u></p> <p>成果1：救急車両及び救援・救助用機材の保有台数が増え、特に山間部の<u>緊急搬送及び救援・救助体制が強化</u>される。 指標1：救急車1台、緊急支援用車両（ハイラックス）：1台、救助用機材（レスキューツール）：1式が贈与され、特に山間部における<u>救急搬送及び救援物資輸送等の出動件数</u>が寄贈前と比較し増加する。</p> <p>成果2：車両の整備・メンテナンスの他、救助用機材の使用方法、応急手当等、<u>知識や技術が改善</u>される。 指標2：車両及び救助用機材が適切に管理され、<u>救急医療の一次処置</u>や災害救助等の対応件数が寄贈前と比較し増加する。</p>